



# 山城博治ひろじさんたちの解放を！



日本政府は、辺野古新基地建设を再稼働させた。この米軍基地建设に反対する抗議行動に絡んで昨年の10月17日、沖縄平和運動センターの山城博治議長（64歳）が、刑事拘束され、勾留は130日（2月23日時点）となった。山城さんのほかにも二名が起訴、勾留された。また、この長引く身柄拘束に、刑事法学者、国際人権団体から「不当に長い」、「政治弾圧だ」という訴え、早期釈放を求める行動が国内外で広がってきた。刑事法研究者64人は、声明で「事件は民意を示す活動中に偶然発生し、違法性は低い。証拠隠滅の恐れもなく勾留は不当だ。解放せよ」と即釈放を求めている。また76カ国の環境NGOネットワーク「FoEインターナショナル」も声明で「強硬な基地建设は環境破壊、人権侵害、民主主義

の破壊だ。勾留に深い懸念を抱く」と続く。

2010年本誌5月号で「沖縄に基地はいらない」特集では安次富浩さんが次のように述べている。「平和を脅かす存在米軍基地はいらない。辺野古新基地建设計画を撤回し、普天間基地をアメリカ本土へ持って帰れと要求しているのです」と。まさにこの一言に尽きるのだ。しかし、アメリカの「狂犬」マティス新国防長官が来日し、米軍基地の辺野古建設を促し、即工事が開始された。時を同じくし翁長雄志沖縄知事が渡米し沖縄県民の「辺野古基地建设は絶対させない」と県民の総意を伝えた。しかしどうだろう。2月20日最高裁は、山城さんの保釈を認めないことを確定した。この司法判断に抗議し、あきらめることのない意志を私たちも行動で示すときだ。

労働大学企画編集委員 高原 敏朗